

売れる米技術情報
～ 売れる「新潟なんかん米」づくり運動～

- ・ 出穂後 25 日までは間断かん水を継続！
- ・ 黄化もみ割合 85～90%で刈り取りを！
- ・ 適正な乾燥・調製で水分 15.0%、整粒歩合 80%以上の 1 等米！

平成 18 年 8 月 23 日
新潟なんかん米改良協会
県央農業振興会議
三条農業普及指導センター

1 各品種の出穂状況と収穫期予想について

○ 収穫適期は、出穂期（出穂する全茎数の 40～50%が出穂した日）からの積算温度（日平均気温の積算値）が、極早生・早生 975℃、中生 1000℃となる日がめやすになります。（8 月 20 日現在の予想）

品 種 名	出 穂 期	最終かん水の目安	収穫期の目安	出穂後日数の目安
わたぼうし	7 月 26 日	8 月 20 日	9 月 1 日	37～39 日
ひとめぼれ	7 月 28 日	8 月 22 日	9 月 2 日	
ゆきん子舞	7 月 29 日	8 月 23 日	9 月 3 日	
こしいぶき	7 月 29 日	8 月 23 日	9 月 3 日	
ゆきの精	8 月 1 日	8 月 26 日	9 月 8 日	40 日
こがねもち	8 月 3 日	8 月 28 日	9 月 10 日	
連休植コシヒカリ	8 月 7～10 日	9 月 1～5 日	9 月 15～19 日	
適期植コシヒカリ	8 月 11～13 日	9 月 5～7 日	9 月 20～23 日	
直はコシヒカリ	8 月 16 日～18 日	9 月 10～12 日	9 月 27～30 日	

8 月 21 日以降の日別平均気温に平年値を代入し予想したもので、8 月 21 日以降の実際の平均気温で収穫予想は前後します。

2 今後の技術対策

【水管理対策】～出穂後 25 日までは必ず間断かん水の継続～

- 登熟期間は最も水を必要する時期ですので、水をきらさないこまめな水管理を徹底してください。
- 早期落水は根の活力を低下させ、品質低下や倒伏を助長するので、出穂後 25 日間は間断かん水を徹底しましょう。
- フェーン現象による過高温が予想される場合は、速やかにかん水し、白穂など高温障害の発生を防止しましょう。

【収穫期対策】～黄化もみの割合 85～90%が刈取適期～

- 黄化もみ割合が 85～90%になり、穂の基部に着生するもみの一部に緑色が残っている頃が適期です。
- なお、高温条件で登熟すると成熟期が早まる傾向にあり、刈遅れによる品質低下が懸念されますので、必ず籾の黄化状況を確認し適期収穫に努めましょう。

【乾燥・調製対策】～水分 15.0%、整粒歩合 80%以上で 1 等米を～

①早めに通風

- 水分の高い生もみは高温下で変質しやすいので、刈り取り後は早めに通風しましょう。

②張り込み時のもみ水分にあわせた乾燥温度で品質低下防止

- 乾燥機への張り込み時の籾水分が高いほど低い乾燥温度で乾燥しましょう。

生もみ水分	乾燥温度	仕上げ水分
28%以上	40℃以下	15%
24以下	50℃以下	
18%以下	昼間通風循環・夜間乾燥	

注) 刈遅れや成熟期ごろにフェーン等で低湿度日が続いたときは、乾燥速度を毎時 0.5%以下に設定

③もみすり等調製の徹底

- もみすりは、もみの温度が常温になってから行いましょう。
- ゴムロール間隔は、脱ぶ率 80～85%になるように調節しましょう（間隔 0.8～1.2mm）
- 整粒歩合の高い 1 等米に仕上げるため、適正流量に調整しましょう。

～異物・異品種混入(コンタミ)の防止～

- ・ コンタミ防止の為、圃場での異品種株の抜き取り、コンバイン・乾燥機・調製機の使用前の清掃、収穫品種切り替え時の清掃を徹底しましょう。

コンバイン、乾燥・調製機等の機械・施設の清掃・保守点検を徹底し、品質向上・農作業事故防止に努めましょう。

フェーン現象による過高温が予報された場合は早急に湛水し、白穂など高温障害の発生を防止しましょう。